

(様式1)

羅 針 盤		方 策
評価対象	評価項目	具体的数値項目
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 学系別くくり募集を導入し、生徒のニーズに対応した教育を実践していますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。
	2 生徒の主体的な学びを引き出す特色ある教育活動を行っていますか。	② 学系、コースの教育活動(ボランティア活動や郊外清掃活動などの奉仕作業を含む)に対して、主体的に取り組めたと自己評価する生徒が80%以上である。 ③ 生徒が学習や研究の成果を発表できる機会を年1回以上設定し、それらの活動に積極的に取り組みたいと思う生徒が80%以上である。
	3 主体的な進路選択を実施するために、進路セミナーや職場見学を積極的に取り入れていますか。	④ 進路セミナーや企業又は上級学校の見学を実施し、進路意識が高まったと感じる生徒が80%以上である。
	4 地元企業や地域と連携し学校外実習や体験学習を積極的に実施していますか。	⑤ 利根実版デュアルシステムや、長期就業体験、小中学校との交流活動・出前授業などに満足感を持つ生徒が80%以上である。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	⑥ 授業が理解でき、学習に対する満足感・達成感を持つ生徒が80%以上である。 ⑦ 日頃より、予習や復習に取り組む生徒が50%以上である。
	6 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	⑧ 各種検定や、資格取得に取り組む生徒が全校生徒の80%以上である。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な生徒指導を行っていますか。	⑨ 問題行動で指導される生徒が前年度比の50%以下である。 ⑩ 不登校や転学者、退学者が前年比の50%以下である。
	8 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑪ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると認識している生徒が80%以上である。
	9 生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 1カ年皆勤者が生徒数の40%以上である。
	10 生徒の健康状態に対する適切な指導を行っていますか。	⑬ 治療勧告を受けた生徒のうち、早期に専門医による治療や検査を受ける生徒が50%以上である。
	11 充実した部活動が行われていますか。	⑭ 部活動に加入している生徒が80%以上で、その活動に満足している生徒が80%以上である。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	12 3カ年を通して系統的で計画的な指導を行い、生徒の希望に則した進路実現が出来ましたか。	⑮ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 ⑯ 就職希望者の90%以上が年末までに採用内定する。進学希望者については、十分な学校研究を行わせ、出願した大学等に全員合格する。
	13 適切な進路情報を提供していますか。	⑰ 学校からの進路に関する配布物に目を通している保護者が80%以上である。 ⑱ 進路の手引きや進路だよりの情報に、生徒・保護者の80%以上が満足している。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	14 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 学校行事(PTA総会、学年別保護者会、学習成果発表会、学校公開)に積極的に参加する保護者が60%以上である。
	15 家庭、地域社会に貢献できる活動をしていますか。	⑳ 学校の施設開放や、地域ボランティア活動に、生徒・保護者の80%以上が満足している。
		希望するコースに進めるよう、入学時からアンケートや個人面談等を実施し、きめ細かい指導を繰り返すことにより目標をしっかりと定めて学校生活を送れるようにします。
		地域社会の行事に積極的に参加させ、地域とかわかることにより、課題を見つけ出させ、解決方法を考えさせ、解決に結びつけます。
		学習成果発表会を全校で実施し、かつ、校外の発表会などにも積極的に参加させ、生徒のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めるよう支援します。
		企業見学や学校見学を有効なものとするために、見学のための事前指導を行い、見学のポイントやワークシートなどを提供します。また、外部講師による進路セミナー等を実施し、進路意識の高揚をはかります。
		地域との連携を図り企業実習や農家実習を行います。また、地域の幼小中学校や特別支援学校等と交流を深め、徳育教育への取り組みや言語活動を意図的・計画的に取り入れていきます。
		多くの普通科目において、習熟度別学習、少人数学習、選択学習を導入し、生徒一人ひとりに指導の手が入りやすい授業を行います。また、授業展開で生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面を多く設定します。 学び直し学習や、学期ごとの基礎学力テストなどの企画・設定などにより、日頃から学習する習慣や態度を養います。
		検定や資格取得への関心意欲を高め、必須で検定に取り組んだり、積極的に受験者を募集し、計画的に補習や補講を行って合格への支援を行います。
		週1回の学年会議、月1回の生徒指導会議を開催し、生徒の情報を共有し職員の共通理解を図ったうえで、一人ひとりの生徒に対応した段階的な指導を実施します。頭髪・服装指導は学年団を中心に徹底指導します。また、挨拶・身だしなみ・遅刻指導を中心に毎朝校門指導を実施し、改善が必要な生徒にはその場で指導し学習活動や学校行事、部活動等の一層の活性化を図り、生徒が自己有用感や自己肯定感を感じる場面をより多く設定します。また、特別支援及び教育相談係の会議を定例化し生徒の情報を共有するとともに、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを中心に問題を抱えた生徒を支援する体制を強化します。
		面談や学校生活に関するアンケートから、いじめの早期発見に向けて組織的に取組めます。
		家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣の確立を図ることで欠席、遅刻、早退を減少させます。
		各種検診の終了後、速やかに保護者あてに受診のすすめを配布し、生徒の受診を促します。
		掲示板の設置等で部員の増加に努め、週1回「部活動の日」を設け、職員が部活指導しやすい体制づくりに努めます。
		総合的な探究の時間やHR活動を通じ、「自己の在り方・生き方」と「将来の職業」との関連を幅広く考えさせる機会を設定し進路に対する意識の高揚を図ります。また、企業等職業人などの外部講師による進路ガイダンスを開き、進路実現に向けての心構えを育成します。 5月に教職員による企業等訪問を実施し情報を収集します。大学・看護系進学希望者には進学対策の補講を実施します。
		保護者会などで適切な資料を配付します。また、進路に関して関心のあることをアンケートで調査して提供資料に反映させます。
		就職や進学の最新の状況、学校での進路行事の様子などを進路だよりとして提供します。
		PTA総会や学校公開などの学校行事を休日を実施するなど、保護者が参加しやすい環境を整えます。
		ファームフェスタ・地域ボランティア活動・地域交流・もの作り貢献などコースの特徴を考えた活動を実施します。